

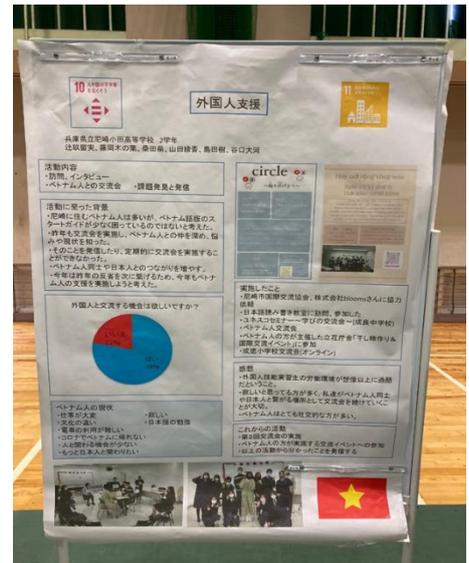
(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動報告書

教育・研究活動名	安心して暮らせる環境づくり (1)災害時の多言語対応(非常時における社会的弱者への支援) (2)尼崎市在住の外国人支援および交流		
申請大学・高校等名	大学・高校等名	兵庫県立尼崎小田高等学校	
	活動グループ名	国際探求「members of a society」	参加学生等人数 11人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等名称	国際探求学科	
	責任者氏名	二森 正人	連絡先電話番号
	E-mail		
協働する市民活動団体 及び代表者名	団体名	尼崎市国際交流協会	
	代表者氏名	理事 古川剛	連絡先電話番号
	E-mail		
教育・研究活動目標	地域住民が安心して暮らせるまちづくりを目標に、非常時に、社会的弱者である外国人への支援が行き届くように、啓発および交流を行っていく。また、日常においても、困った時に頼ることができる人が少ない外国人を支援、および交流する会を企画し、安心して暮らすことができる環境づくりに貢献する。 (1)自然災害時、あるいは現在のような感染症非常事態時に、外国人居住者(大人も子ども)に適切な情報および支援が届くよう、多言語対応を促進する。 (2)尼崎市在住の外国人が、日本語を学んだり、困った時に頼れる人のつながりを持ちたりすることができるように活動する。		
活動内容及び実績、評価	●活動の内容 ア「災害時の多言語対応～外国人居住者への支援を中心に～」防災の基礎知識を学び、災害時や非常時に外国人居住者が直面する問題をインタビューとアンケートを用いて調査し、その解決策を基に、ハザードマップに多言語対応の QR コードを記載することを尼崎市に提案し、外国人の方に役立ててもらおう準備を進めることができた。(別紙:災害時の多言語対応班参照) イ「尼崎市在住の外国人支援および交流～誰もが安心して過ごせる環境づくり～」 尼崎市在住の外国人の方々(主にベトナム人)とゲーム等で楽しく交流する機会を設けた。交流の中で、新型コロナウイルス感染症拡大のため、母国に帰れずさみしい思いをしていることを伺い、普段から連絡を取り合い、SNSを通じた関係づくりを築いた。  ・11月20日(土) UNICEF 尼崎のワークショップにて、取組を発表した。 ・12月19日(日) 探究活動の成果発表として、甲南大学主催のリサーチフェスタに参加し、発表した。 ・1月23日(日) 探究活動の成果発表として、神戸市外国語大学の学生に向けて発表し、質疑応答を行った。 ・2月2日(水) 探究活動の成果発表として、校内発表会で発表し、助言を得た。 ・2月5日(土) 小田高リサーチ生徒研究発表会で発表し、多方面から助言を得た。 ・3月19日(土)～26日(土) 探究活動の成果発表として、第6回IBLユースカンファレンスに出品及びコメント。 ・3月22日(火)収録 FM あまがさき みんなのあまがさき情報局にて、活動内容の収録を行い、3月24日(木)放送された。		



2/5 実施 リサーチ生徒研究発表会  
「尼崎市在住外国人支援～ベトナム人との交流を通して～」



3/22 実施  
エフエムあまがさき収録

●想定していた活動成果に対する達成度合い  
(達成できたこと)

- ・尼崎市在住の外国人支援の活動において、交流会を実施して仲良くなることができ、その後の日常的な関係づくりができた。
- ・災害時の多言語対応について、インタビューを通じて外国人の方から直接、言葉がわからなくて困っていること、そしてその解決策を知ることができた。

(できなかったこと)

- ・外国人支援の活動において、ベトナムの方から伺った悩みなどを解決するために、どのように発信していくのかというのが、課題として挙げられる。
- ・災害時の多言語対応について、ハザードマップに多言語対応した QR コードを掲載することを提案したが、まだ実現には至っていない。

●学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化

(高校生)

自分たちと同じ尼崎に住んでいても、活動するまではあまり関わりのなかった外国人の方と知り合い、お話を伺うことで、外国人の方の考え・思いを自分たちと関連づけて認識できるようになった。今回の活動を通して、「社会的弱者である外国人の方が住みやすいまちにしたい。そうすることが、みんなが住みやすい尼崎市につながる。」と思い、もっと関わりたい、他の自治体の取り組みを知りたいと思うようになっている。

(教員)

高校生の活動をサポートしてくださる団体(国際交流協会や日本語読み書き教室)から支援していただくことで、日頃から地域の活動を支えておられる方の思いや仕組みを知ることができた。

(市民活動団体)

高校生が、外国にルーツをもつ方と直接関わりを持つことを歓迎してくれており、大人だけでなく、同世代、あるいは子どもとの交流なども企画してほしいと要望を受けた。

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。